
学生さんの異世界物語

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学生さんの異世界物語

【Nコード】

N0878X

【作者名】

夢幻

【あらすじ】

これは少し不思議な世界の物語。科学と魔法の両方が発展し、それぞれの文化が入り混じった社会が形成される世界でのお話。そんな世界の大学に通う主人公アルレスは大した特技を持たない、本当にただの学生。別に勇者になるわけでもなく、世界を救う訳でもなく魔法使いになるわけでもなく、ただただ平凡に暮らそうとする彼。そんな彼の日常生活を描いた物語。

一番目 テスト開始前

時計の長針が「4」を指そうとしていた。短針は「10」を超えたあたりにある。

その下には様々な落書きという名の化粧が施された黒板が存在していた。その近くには男性数人がそれぞれ参考書を片手に話し合っている。ときどきチョークを持って黒板に何か書いているところを見ると、おそらく最後の確認と言ったところだろう。

それにしても遅い。

「それで結局公式を抑えとけば点数は稼げるのかっ!？」

「ああ先輩から聞いた。何でも教科書のここの部分の公式の証明が丸々出るらしいぜ」

「本当かよ、ミスつたらお前ジューズ一本おごりな」

「はあ? 問題一問でジューズ一本はおかしいだろ」

周囲では最後の悪あがきとも言わんばかりの必死の行いが繰り広げられている。中にはそれすらも諦めて、ある程度友人から重要な部分を聞きながら、携帯電話をいじるといふ強者もいる。範囲の確認、公式の確認をひたすら友人たちに聞きまわる者もいる。話しかけられる側からすると迷惑だろう。

俺は机の上に置いておいた鞆をどかし、鞆の中から参考書を取り出すと机の上に適当なページを開いた。昨日一応全ての公式を確認、証明と解き方もほぼ覚えることはできた。あとはそれが最中に問題なく出てくることだけだ。

参考書には講義中にシャープペンシルで、マークのつもりで引張ったミミズのような線が書いてあった。その線はそのページの複数の分にまたがっており、どこが重要なのかさっぱり分からない。ため息を吐く代わりに肩を落とし、視線を時計に移した。

時計の長針が「5」を指そうとしていた。

突然ドアが勢いよく開いた。部屋の中にいた俺も含め他の人達も

その音に驚きを隠せず、動かなくなつた。部屋に入ってきたのは紫色のローブを着た老人だつた。自慢の白髭は天然なのかくるりと一回転して顔の外側まで伸びている。この老人が俺のこの講義の教授。教授は左脇に何十枚も重なっているとされる書類を抱えていた。教授はゆっくりと落ち着いた雰囲気です。部屋前方の中央の位置まで足を進める。左わき腹に抱えていた書類を立ち止った位置に設置されていた机の上に勢いよく、それはまるで叩きつけるかのように置いた。

と同時に俺も含め他の人々はまるでスイッチを入れられたかのように一斉に動き始めた。俺は参考書を鞆の中に急いでしまい、代わりに筆記用具を取出し机の上に置いた。これで準備万端と思つたその瞬間に出し忘れていた物を思い出す。再び鞆の中を探り、財布を手に取ると中から学生証を取出し大慌てで机の上に置いた。

「始まる前にトイレに行くようになあ」

教授が俺たち全員に注意を促す。財布を鞆の中へ入れたあと、俺は時計の長針を確認するが「5」と「6」の間にあつた。間に合わない方が怖いかもしれない。大丈夫だ、何とかなる。こんな感じで自己暗示をかける俺であつた。

それにしても遅い。まさか来ないのか。

前方から一枚の紙が配られる。筆記用具からシャープペンシルと消しゴムを取出し、今か今かと待つ。そして、その声は開始の時を告げる。

「はい、テストを始めてください」

「じゃあな」

「うん、じゃ」

正門の前で友達に別れを告げた。

これからテストを受けに行く人間、たった今テストが終わつた人間。その両方が入り混じり、正門の前も後ろも大混雑である。さら

に、正門だけにとどまらず正門の前を走る道路は何千と言う歩行者で埋め尽くされていた。途中で退出しておけばよかったと心から公開する俺だった。肩掛けの鞆を自分の体に接触するように寄せて、なるべく自分の体が歩行者に当たらないようにし、俺は歩き始める。家は正門から西の方角。歩いて五分の位置。八畳間の部屋を借りているだけだが、今は外にいるよりもそこに居たいと思う気持ちの方が強い。

なるべく体を小さくしても当たる人には当たるものでその度に「すみません」と俺は聞こえているか分からないが謝った。そもそも小さな声で謝っているから聞こえていないのかもしれない。

いつもよりも長い時間をかけて到着したアパート。正門の道から一本逸れた道に面しているためそこまで人は歩いていない。胸をなでおろし、とりあえずアパートの入り口にある自分の部屋番号の郵便受けを確認することにする。

「ん？ なんだこれ」

郵便受けには封筒とも手紙とも違う紙切れが一枚入っていた。よく見るとノートの紙切れのようで、半分に折られている。紙切れには「アルレスへ」と書かれていた。少し怪しく思ったが紙切れを開いて、中に書かれている内容を読む俺。

「突然俺の部屋に、異世界からの人が転生してきたので、しばらくその人と旅に出ます。友と教授にもそのことを伝えといてください。フォーマルより」

俺はこの手紙とも言えない紙切れに向かってため息を吐いた。そして、郵便受けの前からアパートに面する道路の脇に移動し、紙切れを片手に空を見上げた。

轟音とも表現できるその咆哮はまさに空を支配する者の証だろう。空にはその元気を体で目いっぱい表現したいのか、縦横無尽にドラゴンが飛び回っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0878x/>

学生さんの異世界物語

2011年9月27日01時09分発行